

パスト・ガバナー

## 神崎 茂

(大阪西RC)

「日韓(韓日)親善は人類愛から」をテーマとして2009年9月4日~5日の二日間に亘って、韓国ソウル、グランドハイアットホテルで行われ、日本側から600名余、韓国側から700名余(参加人員の公式発表なし)で合計約1,300名、当第2660地区から30名が出席しました。

韓日親善委員長(前RI理事)蔡熙秉氏が開会の挨拶で「両国の益々の経済発展と共にロータリーの親善を増進、特に青少年の交換によって相互理解を深めてゆくべきである」と話されました。

1982年に始まった当会議も途中中断の時期が長らく続き、3年前に第8回ソウル会議で再開され、昨年は青森会議に引き継がれ、今回、第10回の記念すべき会議となりました。

現在では日本側250RC、韓国側300RCの間で姉妹提携が締結され活発な交流が行われています。今回当地区から大阪北RCが長年に亘る交流の成果が大であるとして表彰されました。

日本側日韓親善委員長 今井鎮雄氏はその挨拶のなかで今日の世界経済の大混乱について言及し、その経過について見解を示されました。

ロータリー米山記念奨学会 板橋敏雄理事長が数多くの韓国人留学生に奨学金を支給し、米山学友が韓国社会で重要な立場に立って活躍している

現状について語り、二人の学友が本会議に出席し米山奨学金が大きな力となって自分達の今日あることに感謝を表明しました。

駐韓国日本大使 重家俊範氏の祝辞があり、日韓両国のロータリアンが長年に亘って社会奉仕と国際親善に協力し、青少年交流や留学生奨学金制度に取り組んでいることに祝意を示され、両国の人的交流が今日では500万人に達しているとのことでした。

会議第二日目に特別講演者として前駐日韓国大使、前外務部長官(1994~1996)孔魯明氏が登壇し、日韓両国及び今回のロータリーの親善会議については一切言及することなく、終始一貫、日本帝国主義、靖国神社、歴史認識、教科書、独島(竹島)、過去の反省、村山談話等を話題にし、今回の政変によって民主党に期待するとの発言で終わりました。

当日、司会進行係の金昌奎氏(第3640地区永登浦RC)が孔氏の話が韓国側ロータリーの意図ではないとの異例の発言があったことが印象に残りました。

国際親善を目指す精神は崇高であるが、現実には幾多の問題を乗り越えてゆくべきものであると痛感した次第です。

